

幌延深地層研究監視連絡会を開催

～道民の不安・懸念を払拭するために活動の強化を確認～

連合北海道は9月18日、「2014年度幌延深地層研究監視連絡会」を開催した。幌延深地層監視連絡会が設置された目的と今後の活動方針を確認すると共に、深度350mの調査坑道に設けられた研究施設を視察した。

■三者協定遵守を求め取り組み強化を確認

「連合北海道幌延深地層監視連絡会」(注1)(以下、監視連絡会)が設置された目的は、幌延町における深地層研究にあたり、北海道に放射性廃棄物を持ち込ませないよう措置された3つの事項(注2)が遵守されているかを監視・点検するためである。幌延町および隣接市町村の地協と地区連合(注1)で構成し、2002年に設置された。

特に今年は、三者協定を反故にするとも取れる関係者の発言があり、連合北海道が、道・幌延町・日本原子力研究開発機構へ三者協定の遵守を求めた要請行動について報告を行った。

また、今後も道民の不安や懸念が払拭されるよう関係地協・地区連合と連携し、取り組みを進めていくとした方針と2014年度役員構成を確認した。

出席者からは幌延問題を連合北海道内全体の取り組みとするとともに、全国的な問題として連合本部にも政策課題としてアピールすべきとの意見や、研究期間の大詰めを迎える次期中期計画等の情報把握をはじめとして、監視連絡会活動の更なる強化を求める意見が出された。

■本格化する深地層処分研究

会合後には、研究当初からの経過を含めた研究計画の概要について幌延深地層研究センターの説明を受けた。

冒頭、清水所長は「幌延深地層研究センターを処分場にしない、放射性廃棄物を持ち込まない、研究が終わったら地下施設を埋め戻す」と三者協定遵守について言及した。

350m調査坑道の視察では、今後、本格実施されるオーバーパック腐食試験の状況や、人工バリア性能確認試験の説明等を受けた(注3)。両試験とも約5年をかけ、深地層における処分の適応性について、データの収集を行うとのことであった。

注3：両試験の概要については、「政策調査情報 第6号」をご参照ください。

(注1)

連合北海道幌延深地層監視連絡会

＜構成メンバー＞

- | | |
|----------|-----------|
| ・連合北海道 | ・中川地区連合会 |
| ・宗谷地域協議会 | ・猿払地区連合会 |
| ・留萌地域協議会 | ・浜頓別地区連合会 |
| ・上川地域協議会 | ・中頓別地区連合会 |

(注2)

3つの事項

1. 北海道における特定放射性廃棄物に関する条例

【北海道条例】

2. 幌延町における深地層の研究に関する協定書

【北海道・幌延町・サイクル機構（現：日本原子力研究開発機構）による三者協定】

3. 深地層の研究の推進に関する条例

【幌延町条例】



人工バリア性能確認試験



オーバーパック腐食試験

幌延深地層研究監視連絡会が設置されて12年。連合北海道は、監視連絡会と共に幌延深地層研究センターの監視・点検を強化するとともに、北海道全体の課題として取り組みを展開していく。